



地域のために出来ること。
桑原隊員は「地域の方々が集えて、気軽に利用できる場所にした」といつも口にしています。
その思いに賛同する者は多く、入口青年会もその一つです。令和7年1月3日に屋固めを実施しました。屋固めとは「新築した家からの要望に応じて、熊野権現による屋固めを行い、祈禱舞に加え家の柱を獅子頭が噛み、火をつけた葎(よし)を踏み消して水を撒くなどの火伏せのまじないを行う。家と住民を祓い浄める意味がある」と言われています。
ゲストハウスはこれからは、決して新築ではありませんが、地域の方々の期待が込められていることから由緒ある儀式が行われたのだということが感じ取れました。
屋固めに出席した畑中村長は「このような祝いの場に出席できたこと嬉しく思います。」



屋固め後の“なおり”の様子

これから『ゲストハウスはれのち』は、村内・村民・地域の方々にとってかけがえのない存在になることを願っています」と話しました。
また、家主の石田さんは「どうしようかと悩んでいた実家を改修して、みんなの集いの場を作ってくれた桑原さんには本当に感謝しています。ありがとうございます」と感謝を伝えました。
最後に桑原隊員は「たくさんの方に支えられて今があります。まだ始まったばかりですが、沢山の方の心の拠り所になれるよう精進します」と抱負が語られました。

桑原 杏奈 隊員より
みなさまへ
この度、入口地区の古民家を改修し「はれのち」をオープンしました。はれのちは宿泊のみならず、宴会や地域の方々のお茶会など気軽にご利用いただけます。
「はれのち」には、暮らしていれば良い日も悪い日も晴れの日も雨の日もあるけれど「はれのち」で過ごす時は少しでも穏やかに、ゆるく流れていく時間を感じてほしい、そしてそれぞれの暮らしに戻ってからもここでの時間や人との繋がりを思い出して、少しでも健やかな気持ちになれるキッカケの場所になってほしいという思いが込められています。
多くの人に支えられて無事スタートできました。関わってくださった全ての方に改めて感謝申し上げます。
ありがとうございます。
これからより多くの方々に「はれのち」で出会えることを楽しみにしています！